

研修最終日の閉会式で  
歓談した研修生15人と  
研修支援者（16日夜、  
ジャパンソサエティの  
ムラセルームで）

# STUDENT LIFE

週刊NY生活・アメリカの学校紹介と学生ライフのページ

## 明日の向こうに希望

### ビヨンドトゥモローで来米

### 米研修の学生15人決意語る

教育支援グローバル基金「サエティ（JS）」のムラセルーム（本部・東京都）が主催する「ビヨンドトゥモロー夏サマープログラム」の閉会式が16日夜、ジャパン・ソ

記念基金の関係者やホストファミリーら約110人と、和やかに歓談した。式典では、まず村瀬二郎さん、JS櫻井本篤理事長が挨拶、教育支援グローバル基金の理事で事務局長の坪内南さんが研修概要を話している」と支援者に感謝した。続いて、ニューヨーク

ク総領事の高橋礼一郎大使が乾杯の音頭を取り、研修生一人ひとりが英語で自己紹介した。歓談の後は、研修生を代表して青山学院女子短期大学の青木里紗さんが、母の自殺を乗り越えて誰かの手助けをしないと、将来展望を話し、続いて2チームに分かれて研修の概要をスライドを交えて報告した。

今年の研修はニューヨークとワシントンDCで、ホワイトハウスや9・11トリビュートセンターの訪問、現地の高校生とのおにぎり作り、ホームレスへの食事配付ボランティア体験、政界や国際協力、ビジネス界のリーダーとの対話などが凝縮された9日間のプログラム。高知大学の松藤江巳

更さん（19）は、「昨年の韓国研修で英語ができないとだめだと思い、カナダに2か月留学して、この研修に臨んだが、まだまだ。もう一度英語圏に留学したい」と話していた。「ビヨンドトゥモロー」事業は2011年、東日本大震災を機に開始、現在は被災学生だけでなく、親との死別・離別などの困難に直面しながら世界に活躍するリーダーとなる志を持つ若者を全国から選抜している。日米両国の架け橋として尽力した村瀬二郎さんが亡くなった14年に米日財団や同志の寄付で発足したJS村瀬二郎記念基金の「村瀬二郎記念奨学事業」の一環として開催されている。（小味かおる）

